

御議論いただきたい論点(案)

「第6期科学技術基本計画策定に向けたナノテクノロジー・材料科学技術の推進方策について(第一次案)(令和元年6月)」においては、主に「システム改革」に関する事項についての提言を行った。10月の最終報告に向けて、特に以下の論点について、更なる検討が必要ではないか。

(1)国際情勢を踏まえた我が国の立ち位置

米中覇権争いをはじめとする国際情勢が、我が国のナノテク・材料科学技術の振興に与える影響とは。我が国の今後の立ち位置をどう考えるか。

(2)我が国の強み

我が国のナノテク・材料科学技術について、現時点での「強み」とは具体的に何か。一方で、急速に弱くなってきている点は何か。

(3)異分野融合に向けて

「第一次案」では、異分野融合によるイノベーションの創出、特に、量子、AI、バイオのような新たな技術の進展に必須のキーテクノロジーとしてのナノテク・材料科学技術の振興の重要性が指摘された。異分野融合を進展させていく上で、必要となる具体的な取組や仕掛けとは。(短期的(2025年頃まで)、長期的)

(4)重要技術領域

「ナノテクノロジー・材料科学技術 研究開発戦略(平成30年8月)」を踏まえた上で、第6期科学技術基本計画、すなわち Society5.0 や SDGsの実現に向けて、特に今後重要となる技術領域とは。(短期的(2025年頃まで)、長期的)

(5)各セクターの役割と政府の取組

物質・材料研究機構や大学・民間企業等が担っていくべき役割とは。また、各セクターの役割を踏まえた上で、政府が実施・強化すべき取組とは。(短期的(2025年頃まで)、長期的)

(6)国内外への発信

我が国のナノテク・材料科学技術の強みや、当該技術の振興の重要性を、国内外に適切に発信していくための手法とは。ナノテクノロジーに代わる新たなコンセプト(現時点では「ビヨンドナノテクノロジー」と仮置き)は存在するか。